

# 在宅緩和ケアにおける アロマセラピーの試み



JPAS緩和ケア・終末期医療部会  
英国IFPA認定アロマセラピスト  
森本俊子

## 緩和ケア WHO(2002)

「生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族に対して、疾患の早期より痛み、身体的問題、心理社会的問題、スピリチュアルな問題に関してきちんとした評価をおこない、それが障害とならないように予防したり対処したりすることで、クオリティー・オブ・ライフ(QOL)を改善するためのアプローチ」

# 緩和ケア - WHOモデル(1989)

- これまで



- これから



# 在宅緩和ケア

- 24時間のケア体制
- チームケアでのサービス提供
- 家族も含めたケアプログラム
- 症状緩和(特に疼痛管理)



# 在宅緩和ケアの内容

- 診察と観察・対応
- 日常生活上の支援
- 医療機器の管理・指導
- ご自身・ご家族への相談・支援



## NPO法人 かんわ訪問看護ステーション

- 福澤クリニック内(横浜市神奈川区)
- 在宅緩和ケアにおけるチームアプローチ  
スタッフ・・・医師 3名(外科、内科、麻酔科)  
看護師 4名  
MSW(医療ソーシャルワーカー) 1名  
アロマセラピスト 1名

# アロマセラピーの導入プロセス

- ①医療スタッフとの話し合い
- ②アロマセラピー教室
- ③在宅緩和ケアでのアロマセラピー実施

## ①医療スタッフとの話し合い

- 顔合わせ
- アロマセラピー導入の目的
- 実施形態の検討
- 実施までのスケジュール



## ②アロマセラピー教室

- アロマセラピーに関する基礎知識
- アロマセラピーに関する科学的知見
- 医療現場・緩和ケアでの実践
- 実習
- 心のケアについて




## ③在宅緩和ケアでのアロマセラピー実施

- 導入
- スケジュール
- アロマセラピーケアの内容

# 導入

- パンフレット・ホームページ
- インテーク面接での説明 (MSW)
- 訪問時、看護師より説明
- 初回・・・看護師に同行し、セラピスト紹介

# スケジュール

8:30~9:00	<u>申し送り</u> 前夜からの報告・確認
9:00~12:00	<u>訪問</u> 
12:00~12:30	<u>申し送り</u> 報告事項・投薬等確認 記録

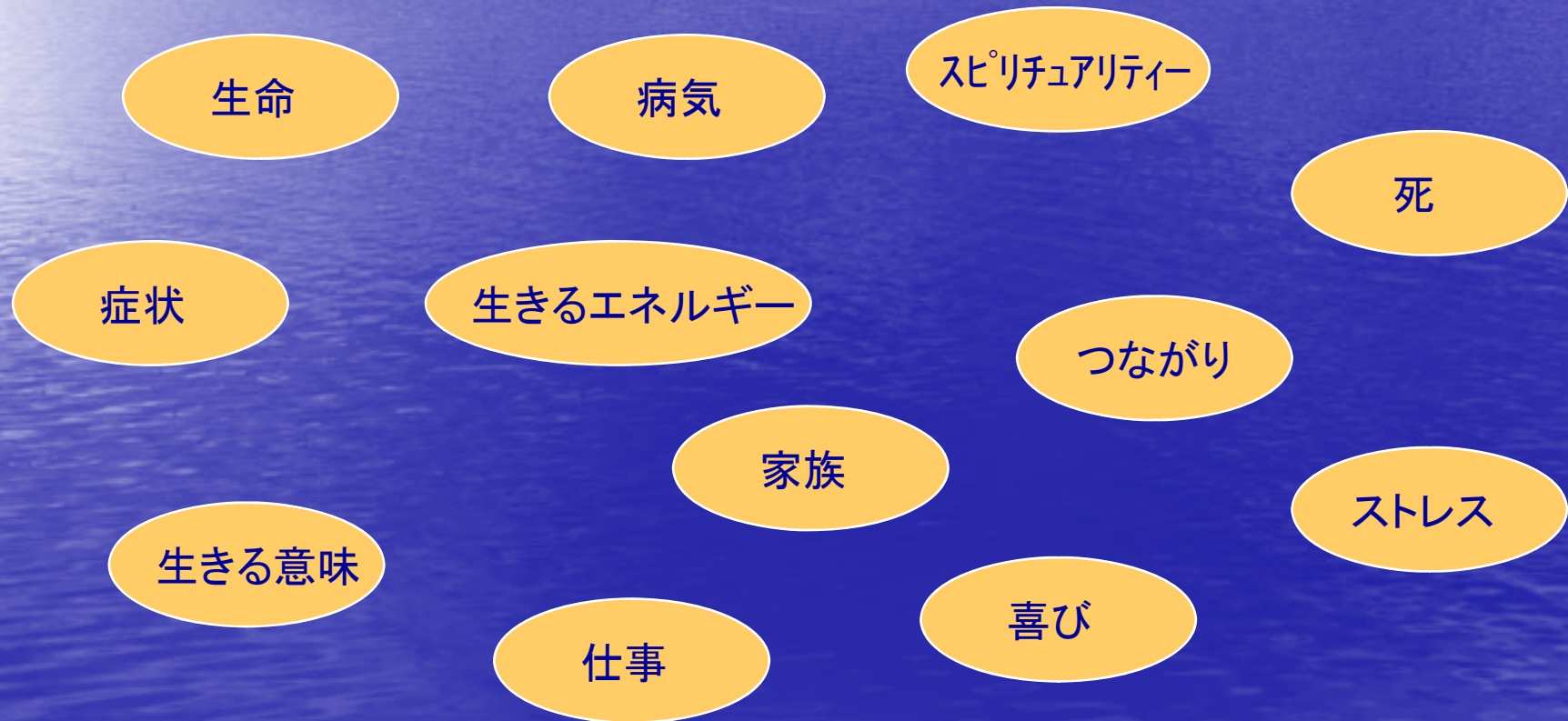
# アロマセラピーケアの内容

- 申し送りでの情報収集・確認
- 訪問時
  - ・コンサルテーション(聞き取り)
  - ・トリートメント
  - ・(ホームケア)
- 報告・フィードバック

## 緩和ケアにおけるアロマセラピーの活用

- 癒し(心地よい安らぎの時間)を提供する
- 不快な症状への補完的な対処  
(痛み・むくみ・吐き気・便秘・皮膚の症状など)
- ストレスの緩和⇒免疫機能への作用  
「心と体はつながっている。」  
精神神経免疫学(PNI)
- 抗腫瘍作用を持つ成分

# 緩和ケア・ターミナル期 個を取り巻く様々な要素



# スピリチュアル・ペイン

生き続ける意味を  
見失ったときに感じる  
心の痛み



# 生命エネルギーを支えるもの

- 存在や価値を支えるケア

「こんな状態でも、自分を本気で大切にしてくれる人がいる・愛されている。」

- 喜び・楽しさ・心地よさ

スピリチュアリティのケア・免疫機能との関連

- 信頼

「信頼は安定をもたらす。不信は恐怖をもたらす。」

# 考察

- 在宅緩和ケアにおけるアロマセラピーケアは、「心地よさ」という側面から心理面やスピリチュアリティのケアおよびご家族も含めたQOL改善の手段としての可能性があると考えられる。
- アロマセラピーの導入に際しては、患者様やご家族の状況、価値観、希望などに対して、敏感にかつ慎重に進める必要がある。
- アロマセラピストがチーム医療の中で活動する際、医療スタッフとの綿密な情報交換、関わる分野の知識を習得することが重要である。

# 今後の課題

- アロマセラピーの作用に関する客観的な尺度を用いた評価
- 在宅緩和ケアにおいて機能する実施形態のさらなる検討



=心と体の対話=

